～文化の風が吹くまち　ちくしの～

文化薫道

◆其の八十三

思いを描いた古墳時代の人々

人々が自らの思いを表現するために描く絵画。古墳時代の「ちくしの」でも、絵が描かれていました。

原田にある五郎山古墳は、かつてこの地域一帯を治めていた権力者の墓で、約1400年前に造られました。古墳の内部には石を積み上げて造った部屋（石室）があり、壁には多くの文様が赤・緑・黒の三色で描かれています。

このように、石室の中に彩色などの装飾がある古墳（装飾古墳）は、福岡県・熊本県を中心にみられ、当時の流行だったようです。その中でも、五郎山古墳の壁画を手がけた人々は、人物、動物、弓矢に関する道具など、具体的な題材を中心に、約80点もの文様を描いています。巧みに並べたこれらの文様によって、古墳時代の人々の当時の姿が生き生きと表現されていることが、五郎山古墳の壁画の大きな特徴です。

壁画のうち、中央で羽ばたく「鳥」と6艘も描かれた「船」の文様は、日本の古墳だけでなく、エジプトの墳墓壁画にもみられます。死者の霊は船に乗り、鳥によって黄泉の世界へ導かれるという死後の世界観は、世界共通のものだったのかもしれません。

なぜ古墳時代の人々は墓の中にこれらの文様を描いたのでしょうか。今のところ、生前の活躍や、死後の世界でも活躍する様子を描くことで、その人物をたたえるとともに鎮魂の思いを込めていると考えられています。

五郎山古墳の石室壁画(CG補色)

問 文化財課

Chikushino No.1198
2022年11月号
発行／筑紫野市　編集／秘書広報課　ホームページ／https://www.city.chikushino.fukuoka.jp/
〒818-8686 福岡県筑紫野市石崎一丁目1番1号 ☎092(923)1111 FAX092(923)5391
印刷／久野印刷株式会社
発行部数／43,700部

筑紫野市フェイスブック
https://www.facebook.com/ChikushinoCity/
筑紫野市ツイッター
https://twitter.com/ChikushinoCity/
筑紫野市LINE公式アカウント
https://lin.ee/6X9wMoy